

会員の連携・協働により機構が目指すビジョンや達成に向けた方策、みやぎ森林・林業未来創造力レッジの人材育成プログラム・実施体制及び各取組の実施工程を取りまとめました。

■私たちの活動と目指す姿

〔課題〕 今日の社会で林業の果たす役割は一層高まっています

- 地球温暖化が進行し甚大な自然災害が多発している今日、県土の保全や低炭素社会の実現に貢献する森林の整備・保全や森林の循環利用（木を使い・植え・育てる）の重要性が高まり、森林を活用した地域活力創出の面からも林業への期待が膨らんでいます。
- 一方、林業を支える担い手は減少・高齢化の傾向にあり、今後本格的な人口減少社会の到来により、その確保は一層困難を極め、林業・木材産業、農山村地域の活力の維持に支障を来すことが懸念されています。

〔使命〕 私たち「みやぎ森林・林業未来創造機構」の役割

- 私たちは、若い世代が魅力を感じる就業の場の創出を大きな旗印にして、宮城の森林・林業の未来創造に向け共に取り組んでいくことに賛同し、機構に結集しました。
- 私たちは、産業界、地域の団体、行政など、多様な主体の連携・協働により、「林業の就業環境の向上」と「人材の確保・育成」に向けた取組を一体的に推進し、若い世代が魅力に感じ、担い手がやりがいを持って安心して就業できる森林・林業の実現を目指します。
- 私たちは、社会課題に向き合い、“持続可能な循環型産業”、“地域活力を生み出す森林活用型産業”に向けて、森林・林業分野の成長を推進し、安全で恵み豊かな県土づくりに貢献します。



機構として育成に力を入れる担い手像 → 「ロールモデル（模範・目標）」としていく

- ◆森林の整備・保全（荒廃森林の整備等による森林機能の高度発揮）や森林の循環利用（適切な伐採・利用と確実な再生林の実行）を的確かつ積極的に推進する。
- ◆森林経営管理制度の活用、高効率な作業システムの導入やスマート林業を展開し、森林の経営管理・生産・流通面の改革を推進する。
- ◆地産地消型の木質バイオマスエネルギー事業、自伐型林業、広葉樹の高度利用、森林を活用したサービス事業など、より多くの価値を森林から生み出すビジネスを推進する。
- ◆SDGs達成への貢献、FSC等森林認証の取得、流域保全や生物多様性保全に、より配慮した森林の経営管理を推進する。

多様な主体が連携・協働し課題解決を図るプラットフォーム（人材交流の基盤）

〔機構の機能〕

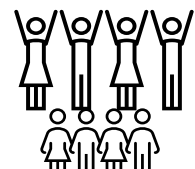
課題解決に向け知恵を出し合う

プロジェクトを興し実現に向け力を出し合う

〔ビジョン＝私たちが目指す姿〕

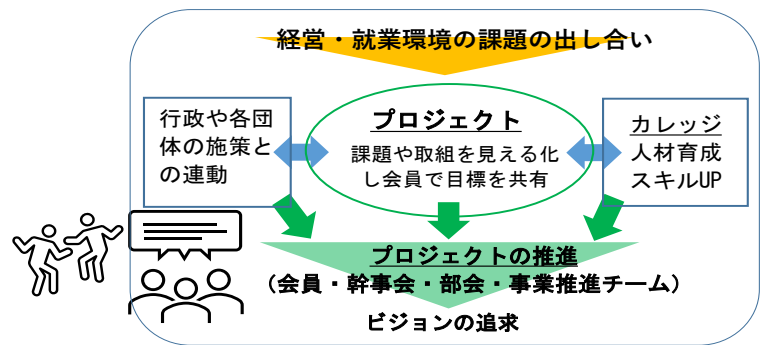
笑顔があふれる森林・林業

- 森林・林業分野が成長を続け、美しく豊かな森林が維持され、森林所有者も林業従事者も消費者も市民も笑顔があふれている社会
- 森林・林業への関心が一層高まり、若い世代の積極的な参入が進んで、森林・林業分野の成長と地球環境の保全や地域社会の発展をけん引する一員として活躍を続けている社会
- 高い安全性の追求と生産性の向上、事業量の安定的な確保が進められ所得の向上や労働安全衛生の確保など、質の高い就業環境が整備されている林業の姿



＜林業の就業環境向上に向けた取組＞ 就業環境向上を進める4つのプロジェクト

「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」による人材の確保・育成を柱に、林業の就業環境向上とその他のための経営強化をテーマにした4つのプロジェクトを行政や各団体の施策と連動させながら、会員や幹事会・部会、事業推進チーム(規約第12条)の参画と取組により推進します。



Project 1 林業担い手SDG s 推進プロジェクト → 事業体と行政等の協力による産業力強化・就業環境向上

SDG s の推進を基本にして、就業環境の向上や経営強化、社会課題への積極的な対応など、林業の産業力強化に向けた取組を広げていきます。

○「林業『働き方改革』の手引き(林野庁、専門家検討会)」(労働安全、雇用、賃金制度)や「生産性向上ガイドブック(林野庁、専門家検討会)」(工程管理・先進事例)、「宮城県環境配慮型皆伐施業ガイドライン」,「FSC原則・基準」等をガイドラインにした勉強会・現地検討会開催。

○路網整備や森林経営計画制度普及など、事業体・行政等が連携した地域プロジェクトの形成支援。

○自助努力や行政等の協力・支援による就業環境向上及び人材育成の推進、優良事例の発掘と紹介、表彰。など

【2027目標指標】①労働災害の撲滅

②新規就業者確保数と定着率 現状(R元年) 63人・5年後定着50%程度→ 100人超・70%

③現場技能者の所得向上 // 日額平均12,300円→ 19,000円(公共普通作業員, 他産業平均程度)

Project 2 林業イノベーションプロジェクト → 快適な林業の実現(安全・効率化・省力化・軽労化)

ICTを活用した森林の調査や資源管理、生産流通など、「スマート林業」の推進や、労働強度の軽減を図る革新的な技術の導入に向けた取組を広げていきます。

○「林業イノベーション現場実装推進プログラム(林野庁)」等をガイドラインにした勉強会・現地検討会開催。

○早生樹試験林造成、システムや機械の共同利用、異業種と提携した技術や商品の開発など、事業体・行政等が連携した地域プロジェクトの形成支援。

○開発企業等の協賛による新しいICT活用システムや機械などの実演会の開催。 など

【2027目標指標】①木材の生産性2倍以上向上(林業イノベーション現場実装推進プログラム目標)

②造林コスト2割以上削減(同) ③機械化先導事業体における下刈り作業効率10倍以上向上(同)

Project 3 森林再生循環プロジェクト → ビジネス化による森林環境の向上

荒廃している森林の再生や再造林の推進、広葉樹林の活用などによる森林資源の循環利用に向けた取組を広げていきます。

○森林経営管理制度や森林環境譲与税等を活用した森林整備推進方策の勉強会・現地検討会開催。

○荒廃森林解消、低コスト造林、公共建築や地域エネルギー利用等による地域材の循環利用など、事業体・行政等が連携した地域プロジェクトの形成支援。

○森林再生をテーマにした木質バイオマスエネルギー利用・自伐型林業・広葉樹利用・育林事業などの起業化や森林の経営管理を担う技術者育成の重点的な推進。 など

【2027目標指標】①森林経営管理制度経営管理権集積面積(累計) 9,600ha (県森林経営管理制度推進方針)

②植栽面積 400ha (みやぎ森と緑の県民条例基本計画)

③広葉樹林の循環利用に取り組む地域 7地域(各圏域1地域以上)

Project 4 経営強化ビジネスモデル創出プロジェクト → 3つのプロジェクトの実践力強化

上記プロジェクトの推進に有効な新たなビジネスモデルの創出に向けた検討と実践の取組を広げていきます。

○会員等からの提案を募り検討し合う「(仮称)森林・林業未来フォーラム/ビジネスモデルコンテスト」の開催。

○上記各プロジェクトの勉強会等による地域モデルの形成支援。

○ビジネスモデル集の作成と推進方策の創出。

【2027目標指標】①ビジネスモデルコンテスト応募 5件(年間) ②実行に移したビジネスモデル 10件(累計)



▼基本とする考え方 ～産業界・地域・研究・行政が共に創り上げる学びの交流拠点～

- 産業界・地域団体・研究・行政が連携・協力しながら、社会・地域・森林・林業の課題や林業へ踏み出そうとする若者達、技能向上を目指す就業者の方々などの多様なニーズに応えられる”フレキシブルな”（柔軟性に富む）研修制度の構築を進めます。
- 研修生と講師が双方向でやり取りを行いながら課題を研究するワークショップ型研修の取入れなど、研修生が主体性を持って参加し、学びと実践を継続できるような研修スタイルを重視します。

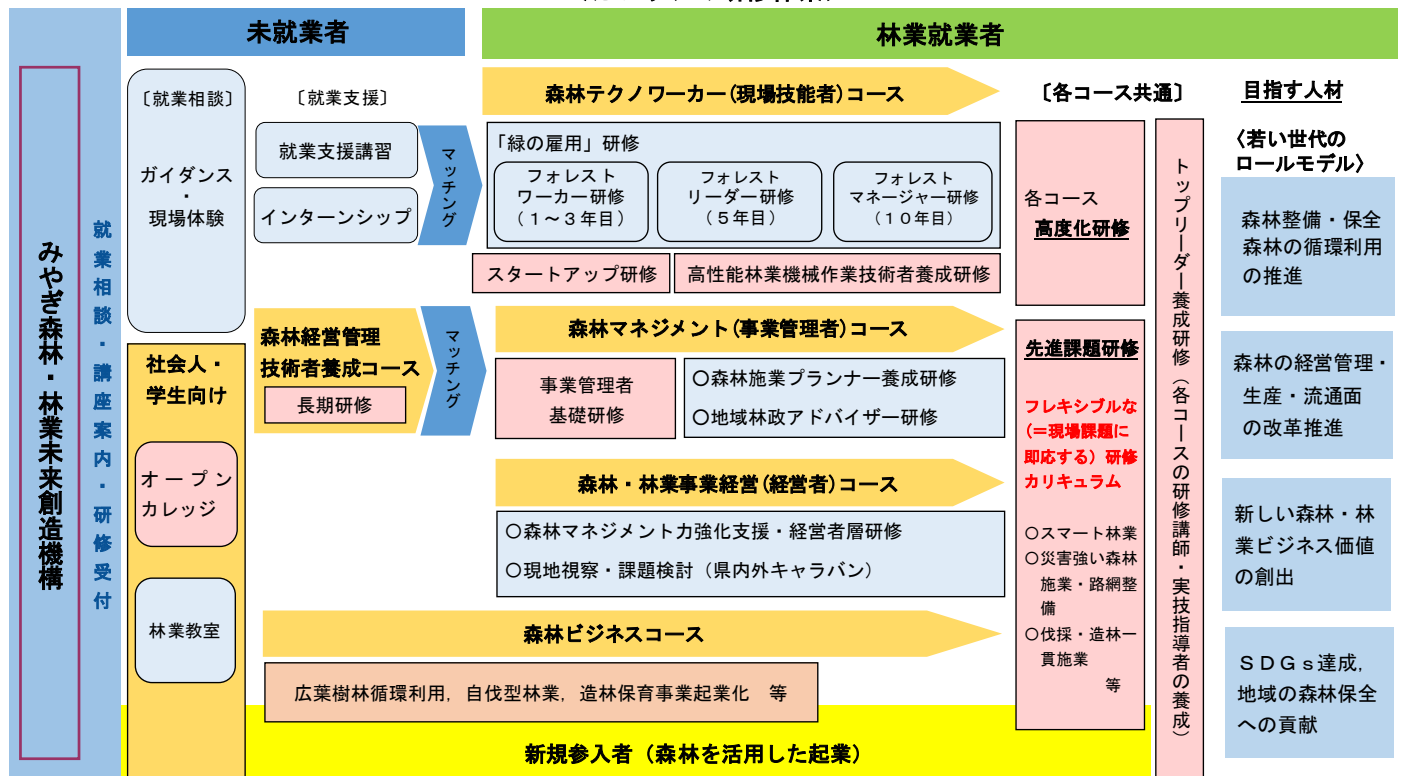
▼人材育成プログラム（研修体系）・実施体制

- 宮城県、宮城県林業労働力確保支援センター、林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部など各研修実施機関の緊密な連携の下に関連する取組をカレッジの人材育成プログラムとして体系化し、森林・林業の学び初めから就業後のキャリアアップまで総合的な研修の場を提供します（下図参照）。
- 研修と連動する「キャリア形成指針」の作成と、キャリアレベルに応じた認定制度の創設を進めます。
- 研修内容の充実に向けて、会員の協力を得て宮城の山々を広く研修フィールドとして活用しながら、学識経験者や実務経験者などとの連携により、研修実施体制の強化を図ります。

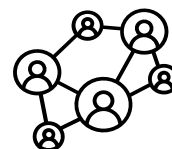
【研修体系のポイント】

- ①学生や一般の方が林業への就業を検討できる機会を充実させるため、**就業ガイダンス**や**現場体験**、**就業支援講習**、**インターンシップ**を行い、「**森林テクノワーカーコース**」につなげ、キャリアアップを支援します。
- ②高校の専門課程等を経て、地域の森林整備や保全、林業経営を志望する若者のために「**森林経営管理技術者養成コース**」を設け、事業体や関係機関の協力を得ながら育成を図り、就業を促進します。
- ③「**森林ビジネスコース**」を設け、広葉樹活用、自伐型林業、育林ビジネスなど森林を活用した起業を支援します。
- ④現場技能者、事業管理者、経営者、個人事業者等のキャリアアップを支援する各コースを設定します。
（森林テクノワーカーコース、森林マネジメントコース、森林・林業事業経営コース、各コース高度化研修）
- ⑤スマート林業、再造林の推進、災害に強い森林施業・路網整備など**先進課題対応型の研修**を適宜設定します。
- ⑥各コースの研修修了者などをコースの研修講師や技能指導者に養成する**トップリーダー養成研修**を行います。
- ⑦林業就業の裾野を広げるため、森林や林業の役割等を普及する**オープンカレッジ**や**林業教室**を開催します。

<カレッジの研修体系>



取組の推進体制・実施工程



- 機構の幹事会及び部会が検討作業を進め、会員やアドバイザーとの意見交換を行いながら毎年度の事業計画や推進方策を整理し、総会で協議・決定の上、取組を推進します。
- 会員等による「事業推進チーム」を適宜組織し、プロジェクト等の取組を推進します。
- 研修実施体制の強化に向けて、会員のほか、国の機関や大学、機械メーカー等の協力をいただきます。
- さらに、研修講師や実技指導者として協力をいただける学識経験者や実務経験者等を募り、「（仮称）研修講師・サポーター交流会」を開催し、意見や情報の交換を行いながら、講師・指導者の確保と研修内容の充実・改善を図ります。
- 事務局である宮城県林業技術総合センターでは、各地域の林業普及指導員をはじめ、普及・行政・研究部門の連携により、効果の高いカレッジ運営・プロジェクト推進・相談対応・情報提供を行います。

■取組の実施工程

注：計画期間は県の「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」に合わせています。

区分・取組		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
みやぎ森林・林業未来創造機構 ビジョン・プロジェクトの推進		活動準備 取組周知 (シンポジ ウム、勉強 会開催)	ガイドライ ン勉強会	各主体の取 組に移行	各主体取組のPDCA、優良事例普及、取組拡大				
			新たな課題に応じた勉強会開催						
			地域プロジェ クト等検討	プロジェクト形成・実行支援					
			フォーラム、イノベーション技術実演会等開催、ビジネスモデル集作成・普及						
		ビジネスモデ ルフォーラム 等開催							
		部会等による検討、プロジェクト推進						事業構想点 検・見直し	
みやぎ森林・林業未来創造カ レッジ		研修計画の調整・実施体制 整備・強化	部会等による研修計画の調整、実施体制の整備、会員等協力体制の整備						
		研修講師等 交流会開催							
		カレッジのPR、研修内容の案内	オープンカレッジ、ホームページ等による情報発信						
		部分開講 イベント							
		R4募集要項 発表	各年度の募集要項の調整・発表						
		開校・研修開始・充実強化	部分開校	本格開校					研修体系 総点検 (見直し拡充)
			森林ビジネス コース開始	各コース 開始	各研修内容の評価・改善				
			先進課題 研修開始		各コース・研修の実施				
			スマート 林業研修		各コース高度化研修、先進課題研修等の拡充				
		キャリア形成指針の作成 キャリアレベル認定制度創設		部会等による検討、 意見調整	指針・制度 決定、運用 開始	指針・認定制度の普及			

お問い合わせ・意見等の提出先 みやぎ森林・林業未来創造機構 事務局

宮城県林業技術総合センター メール morimirai@pref.miyagi.lg.jp

電話 022-345-2816 FAX 022-345-5377

住所 〒981-3602 黒川郡大衡村大衡字はぬ木14

<https://www.pref.miyagi.jp/site/morimirai/>